

杜春会ミニ通信第6号 8005

新年度を迎え、会員の皆様一層御活躍のことと存じます。

東北大学建築学科も来年30周年を迎えようとしていますが、杜春会会員は今春の卒業生(28回生)を加えて、1147名に及んでいます。

今年度も多くの企画、とりわけ30周年記念事業を控えて役員一同心を新たにしています。ミニ通信が会員の親睦に少しでも役に立てばと念じておりますので、会員御一同の御援助御協力をお願いする次第です。

□第3回杜春会セミナーの御案内

第1回、第2回と好評のうちに回を重ねてきました杜春会セミナーも今年度第3回を迎えます。

会員の皆様ふるって御参加下さい。

- ・日時 5月17日(土) 13:30~16:30
- ・場所 仙台市青葉山 建築学科建二教室
- ・講師と演題
藤元 宏、玉川 尚(10回生)
「建築工事の海外進出」
深瀬啓智(9回生)
「幾何学的発想と建築計画」

※今回も前回同様コーヒープレイクを設けます。

□東北大学建築学科創立30周年に向けて

学科創立30周年記念事業に取り組むことについては前号でお知らせした通りです。その後、杜春会役員会与建築学科との打合せを重ね実行委員会も発足し、各々の企画、内容の検討に入っています。

現段階での準備状況をお知らせします。

(1) 記念式典・パーティ

記念行事の一環として、建築学科創立30周年記念大祝賀会を予定しております。恩師、同窓生、全国各地から一堂に会して、楽しい歓談をしたいと思っておりますので、56年5月中旬の予定に御留意下さい。56年早々のミニ通信で詳細をお知らせ致します。

・記念式典・パーティ実行委員会（仮称）

志賀 敏男 教授	山本 忠（東北電力）
柴田 明德 助教授	金原 譲（金原建築設計事務所）
渋谷 純一 助手	深瀬 啓智（蔵王建築設計事務所）
阿部 和彦 助手	阿部 良洋（東北工大）

(2) 建築学科創立30周年記念誌発刊

杜春会誌の特別号として、昭和56年4月に発刊を予定しており、杜春会と建築学科合同の編集委員会が作業を開始しました。

30年史・論説・随筆・記録等、豊富な内容を盛り込む予定ですが、30周年という大事な節目にあたって、歴史的な資料を正確に記録することに力を入れる方針です。会員の卒論・修論・博論のテーマ、卒計のテーマなども記録に残されることでしょう。

論説、随筆など会員諸兄の投稿を期待しております。投稿規定は9月発行予定のミニ通信でお知らせ致しますが、編集委員会から会員に執筆方をお願いすることもありますので、その節はよろしくお願いたします。

・記念誌編集委員会（仮称）

佐藤 巧 教授	石川 善美 助手
坂田 泉 助教授	川股 重也（東北工大）
平井 和喜 助教授	関 信男（岡設計）
山田 大彦 助教授	舛岡 和夫（東北工大）
三橋 博三 助教授	鈴木 浩（小山高専）
近江 隆 助手	長谷川計二（大学院生）
飯淵 康一 助手	

(3) 記念コンペ

審査委員会を下記の如く構成し、現在、応募要項を作成すべく検討を重ねております。今のところコンペの素材として、次の2つが候補となっており、本年9月頃に応募要項を発表したいと考えております。その折は奮って応募して下さい。尚、記念コンペは杜春会独自の事業とします。

- i) 同窓会記念館
- ii) その他 i), の実施を念頭においたものではなく、テーマも含めて自由な提案を期待するもの。

・記念コンペ企画委員会（仮称）

菅野 実 助手	沢野 信行（飛鳥建築設計事務所）
平本 重徳（岡設計）	原田 有造（基石ハウジング工房）
塩入 健史（蔵王建築設計事務所）	御供 政敏（菅原建築設計事務所）

□小倉強先生逝去さる

東北大学建築学科の創設の任にあたられ、また杜春会の名付け親でもあられた小倉強先生が去る2月23日御逝去されました。

告別式では同窓生、教え子が多数参列し、杜春会からも桂会長が御霊前に弔辞を述べました。ここに桂会長の弔辞を本会の追悼文として紹介します。



昭和31年3月最終講義をされる小倉先生



このように小倉先生揮毫の杜春会命名書を頂きました

追悼のことば

謹んで、恩師、元東北大学教授小倉強先生の御霊前にお別れのことばを申し上げます。先生のご急逝は、私達杜春会会員一同にとりましてまことに思いがけない深いかなしみでございます。先生の私達に対する謹厳な中にも慈愛にみちたまなごしにもう接することができなくなりました。本当に残念でたまりません。

仙台工業専門学校教授であられました先生は、戦後の学制改革によります新制東北大学建築学科の創設の任に当られました。その為に先生は大変なご苦勞があったとお聞きしておりました。昭和26年第1回の学生が学部へ進学しました当時、先生はご苦勞でお身体までこわされたのを私達はよく存じ上げております。今日の建築学科の発展は、先生のお身体までもこわされた基礎作りのお陰であると申ししても決して過言ではありません。お陰さまで卒業生も立派に育っております。先生どうも有難うございました。

私達が先生から直接ご指導いただいたのは、昭和26年から31年の草創期のわずか5年間だけでしたが、先生のご熱心な建築計画学のご指導は、先生のためなない研究生生活によってつちかわれた幅広い識見によって当時の学生はもとより、先生ご退官以後の今日まで大きな影響をおあたえ下さいました。特に、先生は東北の風土や生活を愛され、じみな民家の研究に重点をおかれましたが、これは本当に親しみを感じられるお人ごらによるものと思います。当然のこととはいえ、先生のご研究は日本建築学会賞や第1回の河北文化賞に輝いておられます。このような先生は、仙台で建築を学ぶ私達にとっては慈父のような存在でありました。

また、先生は私達の同窓会の名付け親でもございます。杜の都で学んだ私達が春の若葉のように希望に満ちて育つようにと「杜春会」と名付けて下さいました。「杜春会」は、先生御退官当時は百余名でしたが今日では、千百名を超える大所帯に育っています。会員は先生のこの願いにこたえるべく、夫々の場で建築に情熱を燃しております。先生の高まいなるご遺志を受けつぐことは至難なことではありますが、先生の有形無形の影響は必ずや私達を振り立たせて下さいますし、私達は先生のご遺志を受けつぐべく努力を重ねてゆく覚悟でおります。

どうか先生、安らかにお眠り下さいますよう。杜春会は東北大学建築学科と足並みそろえていつまでも前進してまいります。このような私達をどうか温かく見守っていただきますよう心からお願い申し上げます。お別れの言葉といたします。

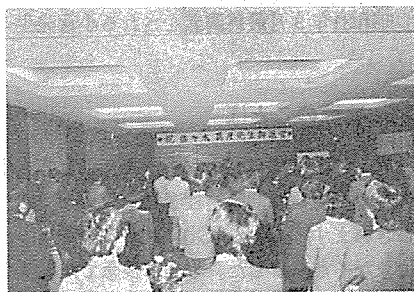
昭和55年3月1日

杜春会長 桂 久 男

□佐々木嘉彦先生停年退官を迎える



(佐々木教授最終講義)



(記念パーティ)

長らく計画第Ⅱ講座の教授をしてこられた佐々木嘉彦先生が本年4月1日付で停年の御退官となりました。先生は東北大学へ赴任以来29年間、幾多の人材を育成し、また専門家として都市、農村の計画に参画し多方面での社会的貢献をなされました。

先生の最終講義は2月9日、建築学科建Ⅱ教室で「生活・地域・地域計画」という題で行われ、教室は200名にのぼる聴講の方々で立錫の余地のない盛会となりました。引きつづき午後には杜春会協賛の記念パーティが勾当台会館で行われました。名誉教授の西田周作先生、高橋武雄先生、早稲田大学同期の吉阪隆正先生他多数の方々の御来席をいただき、これも200名にのぼる大盛会となりました。当日は建築学会支部長の谷川正己先生、仙台市顧問の小岩忠一郎様、日本生活学会理事長川添登先生他多数の方々から御祝辞をいただきました。なお、事業会は学科創立以来デッサン・彫塑の指導をされ、今年本学非常勤講師の停年を迎えました佐藤辰雄先生をお招きし、また先生の油絵を佐々木先生への退官記念品としてお贈りしました。

事業会の醸金には4月17日現在313名の御協力をいただき、また佐々木先生からは御礼として100口の醸金をいただきました。御協力をいただきました皆様方には後ほど礼状、会計報告をお送り申し上げますが、概略、収入2,702,000円、支出262,240円となっています。事務経費を除いた残金は佐々木先生他の記念論文集の出版補助として役立たせていただきます。

佐々木先生には東北大学名誉教授となられ、4月からは八戸工業大学教授、東北工業大学非常勤講師として、引きつづき研究・教育の場で御活躍されております。先生の今後の御発展と御健康を祈り、また、事業会に御協力下さいました皆様に厚く御礼申し上げます。

昭和55年4月

佐々木嘉彦教授退官記念事業会 和泉正哲 近江 隆

□学科だより

春爛漫の季節となりましたが、会員の皆さん如何がお過ごしでしょうか。80年代の幕開けということで夫々心を新たに御活躍のことと思います。

恒例によりここ1年間の学科の近況をお知らせします。

まづ大きなニュースとしては、昨年4月に寛和夫先生が教授になられ建築計画第Ⅱ講座を担当されたこと、佐々木嘉彦先生が本年4月1日付けで定年退官され八戸工業大学へ移られたことです。両先生の増々のご活躍を会員の皆さんとともに祈念したいと思います。

また若干の移動があります。鈴木浩助手が小山工専の助教授として、但木幸男助手が宮城職業訓練大学校の教官として栄転され、オランダへ留学していた三橋博三助手が帰学され本年4月に助教授に昇任されています。また、昨年は、松本博(24回生)、野村希晶(25回生)の両君が設備研、構力研の助手として、本年は勝倉裕(23回生)、山田聖志(23回生)の両君が学位を取得され構力研、防災研の助手として学科教官陣の新たな戦力として加わっております。そのほか、実験でお馴染みの菅原義助さんが定年退官されましたこと、20回生の湯田善郎、遠州尋美両君も芽出度く学位を取得されましたのもニュースです。菅原さんには、長年のご苦勞を謝したいと思います。

先生方の海外出張も活発で、内山、坂田両先生はスペインへ、佐々木先生、鈴木浩君は中国へ学術視察へ出かけられました。その報告会なども催され海外の空気も学科に吹き込んでおります。

宮城県沖地震の後遺症も完全に癒えたとはいえないまでも学科内は従前の落ちついた雰囲気になってまいりました。どうぞ来仙の折には、青葉山まで足を伸ばして近況をお知らせ下さい。

学科創立30周年記念事業も志賀先生、佐藤巧先生の音頭とりでスタートしました。会員の御協力を重ねてお願いしまして筆を置きます。(桂記)

出版案内

坂田泉他著 「日光東照宮の文様」 ふたば書房

78,000円

□会費納入のお願いと長期滞納者の扱いについて

昭和55年度会費（1,500円）を御請求申し上げます。なお、請求金額には以前の未払額も含めてあります。

・記念誌出版負担金

また、30周年記念事業の一環として記念誌を発行する予定になっていますが、年会費の財源だけではまかないきれません。そこで、記念誌発刊については会員の方々に出版負担金（1,500円）をお願いすることになりました。あわせて御協力下さいますようお願いいたします。

本会の台所も窮迫致しております。どうぞ御協力下さい。

役員会では、会費の長期滞納者の扱いに苦慮致しておりますが、次のように取り扱うことを検討しております。会員の皆様の御意見をお寄せ下さい。

- ・今後発刊が予定されております杜春会名簿（'80.9）を5年以上会費を滞納している長期滞納者に送附しないこと。
- ・その他の郵便物（ミニ通信など）は従来通り送附して、長期滞納者といえども連絡を絶やさないようにすること。

□よりよい名簿づくりに御協力を

杜春会名簿が小型サイズになってから3度目を迎えようとしています。この小型サイズの名簿は好評で「出張の時は、カバンの片すみに……」などという、会員からのうれしい声を耳にすることがあります。したがって、より正確なものにしなければならないと考えております。

事務局では今年度名簿発刊を9月に予定しその準備を始めました。まだまだ不明者も多く、勤務先、住所の変更なども知らずじまいになっていることが多いかと思います。どうぞよりよい名簿づくりのために、会員の皆さま一人一人の御協力をお願い致します。また何かお気付きの点がありましたら、事務局まで御連絡下さい。お待ちしております。